

農作業メモ



営農指導課 井口 晶平

水稲

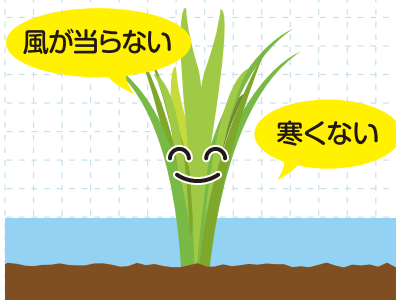
代かき・育苗・田植えと忙しかった春の作業も5月中旬になれば一段落。茎が穂になるかどうかは、田植え後1ヵ月程度で決まってしまう。適正な水管理を行い、有効分けつを確保しましょう。

水管理 天候・稲を見て丁寧に

①田植え直後

風の強い日や、冷え込む日は深水にして苗を守ります。

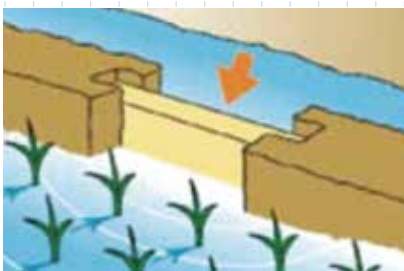
暖かい日は浅水にして地温を上げて苗の生育を促します。



②除草剤散布後～1週間

ジャンボ剤やフロアブル剤、粒剤のいずれにおいても、散布後少なくとも7日間は水の出入りがないようにします。

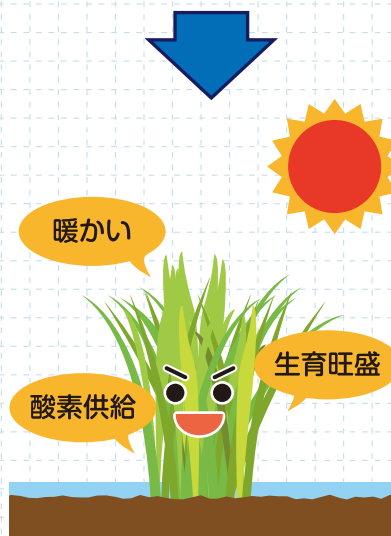
その間、田面が露出しそうな場合は、あらかじめ深水にしておくか、除草剤の処理層を壊さないよう、静かに差し水をしてください。



※処理後の予期せぬ大雨等によるオーバーフローを防ぐため、止水板は十分な高さをとって設置しましょう。

③田植え後1週間～中干し前

長期間、深水にしたり水の動きを止めてしまうと、稲の根が酸欠になります。下葉に赤褐色の斑点が発生したら、根が酸欠になっている可能性が高いです。新鮮な水を入れたり、排水をして根に酸素を供給しましょう。天気の良い日は分けつ促進の絶好のチャンスです。思い切って浅水にして地温を上げましょう。



有効茎数の確保

初期の分けつが重要

$$\frac{\text{収量}}{\text{反}} = \frac{\text{穂数}}{\text{㎡}} \times \frac{\text{粒数}}{\text{穂}} \times \frac{\text{登熟歩合}}{\text{}} \times \frac{\text{千粒重}}{\text{}}$$

収量を決める要素は上図の通りです。多くの収量を確保するための穂数が、今の時期に決まります。

田植え後1ヵ月～40日間の茎は穂になりますが、それ以降に増えた分けつは穂にならず、栄養を食い逃げしていきます。水管理を徹底して分けつを増やし、穂数確保を目指しましょう。目標は穂数400本/㎡です。下の表を参考にしてください。

茎数の増え方は天気に影響されます。昨年と全く同じになることは絶対にありません。茎数や天候から中干し時期を判断してください。

今まで「茎数なんて数えたことない」という方は、ぜひ一度田んぼに入り、茎を数えてみてはいかがでしょうか。

<穂数400本/㎡にするために>

田植え時 坪あたり株数	50株	60株	70株
株間	20cm	18cm	16cm
㎡あたり株数	17株	18株	21株
1株あたりの 目標茎数	24本	22本	19本
中干し開始 目安の茎数/株	19本	17本	15本